

オオヨシゴイ

Ixobrychus eurhythmus (Swinhoe)
ペリカン目・サギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

全国的にも減少が懸念されている種である。本県においては、これまで秋の渡りの時期にごく稀に記録があるが、2005年10月に若狭町で標識・放鳥されて以降記録がない。

種の特徴

全長約39cmで、上面が栗色と黄灰色の小型のサギ類である。下面は白っぽく、喉から胸の中央に1本の黒線がある。高茎湿性草原に生息するが、ヨシゴイより乾燥した環境を好む傾向がある。早朝と夕方に、小魚、エビ類、等脚類、昆虫類、カエル類等を捕食する。

分布

本州中部以北に夏鳥として渡来し、少数が局地的に繁殖する。本県では、過去に5件の記録があることから、ごくわずかの個体が、本県を通過していると推察される。

生息を脅かす要因

河川改修等によるヨシやマコモ等の高茎湿地の減少が影響を与えると推察されるため、保全に留意すべきである。さらに、農業や外来魚による餌の小動物の減少も影響を及ぼす。なお本種の減少は全国的な傾向で、東南アジアの越冬環境が消失している可能性もある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、日高（1996）、大西ら（2014）、中村・中村（1995）、高野（2015）

| 市町別 生息情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|-------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ |

ミゾゴイ

Gorsachius goesagi (Temminck)
ペリカン目・サギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生息可能地において、早朝もしくは夕方に鳴き声を聞き取る調査を網羅的に行ったが、存在が確認されたのは、わずか4か所程度であった。またこれまでに2か所で繁殖が確認されている。これらのことから、生息はしているが、かなり希少な種である。

種の特徴

全長49cm、顔が赤栗色、上面が暗栗色褐色のサギ類である。薄暗い森林を好み、沢筋の上部に張り出した枝先に営巣する。繁殖期には大きな低い声で「オッ、ポォーッ」と鳴く。夕方から夜間にかけて、沢筋等でサワガニ等の甲殻類、ミミズ、魚類等を捕食する。

分布

夏鳥として、本州～九州の低山の林に渡来し繁殖する。本県でも低山の林で生息や繁殖が確認されているが、確認地が大変少ないことから、分布は限られている。

生息を脅かす要因

里山管理や森林施業、土木工事等の人間活動においては、森林環境の変化と人間の接近による営巣放棄等の影響が考えられる。県内の生息地は大変限られているため、生息確認地での改変行為については、本種の生息状況を把握した上での事業実施が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、大西ら（2014）、高野（2015）、中村・中村（1995）

| 市町別 生息情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|-------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | | ○ | | ○ | | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ |

クロツラヘラサギ

Platalea minor Temminck & Schlegel
ペリカン目・トキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

推定生息数が3,200羽の東アジアにのみ生息する世界的な絶滅危惧種で、IUCNのリストでは絶滅危惧種（Endangered）、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧ⅠB類に選定されている。本県には稀に飛来する。

種の特徴

全長73.5cmで、成鳥冬羽では全身が白く、嘴と足は黒い。嘴の先が平たいしゃもじ形をしており特徴的である。干潟、湖沼、湿地、水田等で、首を左右に振りながら、魚類、甲殻類、貝類、昆虫類等を採餌する。

分布

数が少ない旅鳥または冬鳥として、毎年約300羽が、主に九州以南に渡来する。本県では、1981年に3回、1997年1回、福井新港で1羽ずつ記録されただけである。

生息を脅かす要因

本種が確認された福井新港では、多くの水鳥が造成途中の池の岸辺に飛来し、採餌と休息に利用した。本種と同様の環境を利用するシギ・チドリ類も減少傾向が著しいため、本種も含めた浅い水辺を利用する水鳥の中継地造成等の抜本的な自然再生が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、日本野鳥の会HP、中村・中村（1995）、高野（2015）

| 市町別 生息情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|-------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | |